



生徒も先生も学び合う

松本秀峰 保護者講師に授業

秀峰会PSTによる「秀峰アカデミア」が開かれ、保護者の講師に学んだ

松本市の松本秀峰中等教育学校で18日、保護者と生徒、教職員の3者で

つくる秀峰会PST(宮尾則夫会長)が企画した初めての授業「第1回秀峰アカデミア」が開かれた。専門的な知識を持つ保護者4人が講師となつて経験を語り、3者合わせて約180人が共に学んだ。

11月の公募に応じた医師や薬剤師、企業の技術者など4人の保護者を講師とし、それぞれ分科会を開いた。大手精密機器メーカーでマーケティング部門を担う片桐勝さん(松本市井川城1)は「海外に目を向けてみよう」と題して、南米や北米、中国などで10年以上海外勤務した経験を語った。片桐さんは現地のスー

パーマーケットなどを訪れ、生活や雰囲気把握していることなどを紹介した。「行って見ることとは、知識とは違う意味を持つてくる」などと海外を知る大切さを強調した。生徒たちは熱心に聞き入っていた。

秀峰会PSTは今後、交流会などさまざまな方法で3者間の距離を縮めていく方針で、小宮山淳校長は「互いに学び合う環境を整える第一歩となれば」と願っていた。(小岩井貴之)

製品通して

松本養護学校

松本市今井の県松本養護学校は18日、恒例の校外販売会を市内2カ所で開いた。高等部の作業学習で作った工芸品や手芸品、園芸品などを並べ、生徒が市民と触れ合いながら販売した。